

尾道支部

谷本 憲治

2012年入会

工学研究科 地球総合工学専攻
船舶海洋工学コース 修了



今までの経歴を教えてください

船体部→上海事務所→尾道支部（取材時）

現在のお仕事は？

船舶の検査業務

現在、担当している船舶検査業務は、新造船（新しく建造する船）および就航船（建造後に定期的な検査を受ける船）で内容が異なりますが、基本的には船舶構造および艀装品が国際条約等の規則を満足しているかを確認する仕事です。新造船検査では、たった一枚の鋼板の状態から船が完成するまでの間の全建造段階に関わります。就航船検査では、場合によってはたった一人で船に乗り込み、定期的検査で要求される検査項目を、決められた期間内に全て実施します。弊会は船を建造しているわけでも、船を所有・運航しているわけでもありません。しかしながら、新造船または就航船であっても、検査を通してその船と密接に関わるため、検査が完了した後に船が出航していく姿を見ると、達成感とともに感慨深いものがあります。

国内勤務でも異文化交流・接触が多い

国際航海する貨物船の船員は外国人（中国人、フィリピン人、インド人、ロシア人など）である場合が多く、船の中では英語を始めとした様々な言語が飛び交っており、まるで外国にいるような感覚です。一方で、大きな貨物船の船員は、基本的には長い航海の間船の中で生活しています。そのため、船の停泊中に船上検査で訪船し、船内を動きまわっていると、中国人船員の船では卓球台が娯楽室に置いてあったり、インド人船員の船では食堂でカレーが作られていたり、外国の特色ある生活を垣間見ることができます。さらに、検査の休憩時間等に船員と世間話をすることも多く、文化の違いを肌で感じるすることができます。弊会は海外転勤も数多くありますが、日本にいながらでも上記のような異文化交流・接触を経験できる点が、魅力の一つでもあると思います。

どうしてNKを選んだのですか？

国内外問わず様々な場所で多様な人々と仕事ができるところ

私が就職活動をしていた頃は、いかに海外との接点が多いかという点に着目していました。一方で、私の経験上、そのような海外との接点が多い企業は昼夜休日問わず仕事がある上に国内外転勤が多く生活面で難点があり、特に住居の確保に苦勞している方が多い印象がありました。弊会においても国内外転勤が多いのは同様ですが、住居は社宅等で基本的には確保して頂けるため、その点においては生活面での苦勞が少ないと感じました。さらに、長い大学生活にて学んだ船舶工学を仕事に生かしたいと思い、可能なら船舶業界に就職したいと考えていました。

「海外との接点が多い」ことが最も大きなポイントでしたが、「居住面での心配ごとが少ない」「大学での学習内容が役に立つ」この2つのポイントも日本海事協会を就職先として選ぶ決め手になったと思います。



学生・就活中の方へメッセージ

就職情報サイト等でよく見かける社風や仕事環境に関する記述は、インターンシップなどの体験入社程度では分からない場合が多く、実際に入社して一人前になってから分かり始めるものであり、仕事のやり方次第でどうにでもなることだと、社会人になってつくづく思います。なので、社風や仕事環境を除いた上で、就職活動において自分が軸にしているポイント+αがどれだけあるのかで就職先を考えていくことが重要だと思います。